

国際学会へ5ヶ国5名参加

はるかなるインドにて、ドクター院生活躍

India: Incredible experiences
Win on art Issarathum noon Yu i

During 11 -14 December, land four of our friends had a chance to join the 12th International Conference of the Planning History Association (PHS) at New Delhi India.

My paper presented at the PHS Conference is "The Implementation of Conservation Plans of the Rattana kosin Area Bangkok". The paper addresses the question: why the cultural heritage planning for the historic core of Bangkok cannot obtain a success, even though it has been implemented from 1980s. For answering this query, the paper is divided into five parts. First part is to explain urban characteristics of the Rattana kosin area, which are the first settlement of Bangkok and the house of palaces, royal temples, governmental institutions, as well as the intimate neighborhoods and local markets. Second part is the description of the Rattana kosin Committee - the main actor of conservation bodies. Third part is about the master plan of the Rattana kosin area, which is the foremost policy plan. Main concepts and conservation programmes are described. Fourth part analyzes the success and ineffective programmes and activities in heritage planning. Finally, the obstructions and the ways for solving obstructions are suggested.

昨

2006年12月11～14日、インドのニューデリーにおいて開催された国際都市計画史学会に、当研究室の博士課程院生5名が参加。留学生中心のメンバー（韓英英D3、馬場美彦D2、宋珍和D2、ウィモンラット・ユイD2、リー・クウィン・チーD1）が、国際舞台で各々の研究成果を披露した。研究室旅行でも存在感をアピールしたユイD2が、自身の発表と学会後の旅行をレポートする。

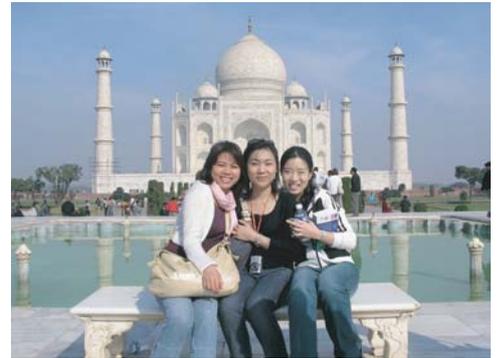
ユイD2の発表は、「バンコク・ラタナコーシン地区における保全計画について」と題して、「バンコクの歴史地区における文化遺産保存計画は、80年代から行なわれてきたにもかかわらず、なぜ成功を収めなかったのか」という問題を設定し、以下の5章から成る。

1. ラタナコーシン地区の歴史と特性
2. 保全主体であるラタナコーシン委員会
3. ラタナコーシンのマスタープラン
4. 文化遺産保存計画の成果と課題
5. 保全への障害とその克服への道

In my section, many scholars presented topics about cultural heritage in general ideas and also various perspectives from different countries. In other sections, the topics of history of urban planning, and use planning, urban problems and so on, are discussed.

After the conference, I took a cultural trip to "the Triangle Area", including two main historical towns, Agra and Jaipur. In Agra, the most impressive place is "Taj Mahal", the monument for love, built by the Mughal Emperor Shah Jahan in 17th

century. In the last two days, we spent the great time in Jaipur, the capital of Rajasthan, known as "the pink city". The city of victory in its meaning still has shown good planning of Bengali style in 18th century.



タージマハルにて/左から、チー、ユイ、宋

The physical elements of the capital, which are the city palace, the city fort, the city wall, and the shop-houses in pink colour, are kept in good condition, and mixed with the chaotic in the daily lives of its inhabitants.

As India is very rich with diversity in cultures, I would like to say that only one part of India that I visited, cannot explain the whole India. The "Incredible India" is the word that can be a representative of all my experiences in India. As so, this word, "Incredible India" makes me eager to come back to India and explore it more! NAMASSATE.

<抄訳> 学会後は、「黄金三角地帯」へ旅行。アグラでは、タージマハルに感激。最後の2日間は、18世紀ベンガルの都市計画によってつくられた「ピンク・シティ」ジャイプールで過ごす。整然としたまちの、よく保全された建物のピンク壁の傍らで、混沌とした生活風景が繰り広げられている。瞥見した限りの一面のみでは、インドを到底語り得ない。「はるかなる」インドへ、また訪れて、その魅力を発見していきたい。



2006. 12. 18研究室会議

<修士2年>

江口久美「寺社・まちの空間の変遷と文学における描写からみる日本的にぎわいに関する研究—上野を対象として—」

三澤茂樹「行政・民間・市民の各主体及び主体間連携による、屋外広告環境の向上に向けた取り組みに関する研究」

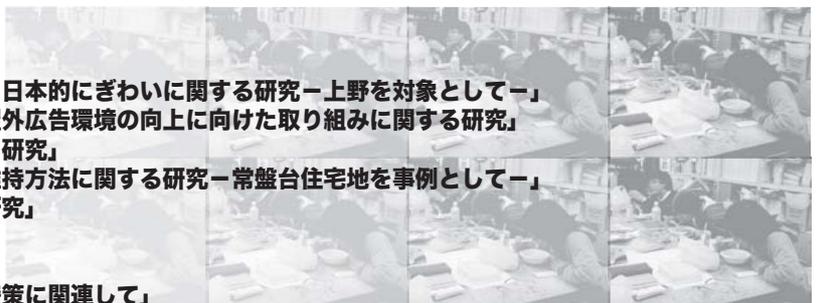
柴田直「工業地域再生マネジメント手法としてのTIFに関する研究」

早坂勝一「街のイメージに着目した高級住宅地における住環境維持方法に関する研究—常盤台住宅地を事例として—」

西原まり「地域資源としての空き家の利活用システムに関する研究」

<OG>

義平真心「東京上野周辺の路上生活者の実態調査—都の住宅支援策に関連して—」



忘年の饗は西村「檄」場

text_bannai

「まちにはばたかせよ、想像力」

＜西村教授演説・要旨＞

受験戦争の荒波をくぐり抜け、今この宴に酔いしれている君達は、どのような韜晦をもってしようとも、紛うことなきエリートとしてあり、これからもあるだろう。君達の多くが、東京を主とした首都圏、都市のただ中で生まれ育ち、もちろん厳しい受験という桎梏はあれど、都市の自由な空気の中で、そして、団塊世代の親たちが営む「理解ある」家庭の中ですくすく育ってきた、という事実が否みようがない。ところが、ひとたび都市を離れば、あるいは、日本を出て世界へ目を転じれば、君達にとっては所与のそうした環境が、全く特殊のものであるということに気がつくだろう。君達が日常的に交わすポキャブラリーが全く通じない社会が、あるのだ。と言うよりむしろ、そうした世界の方が大半なのだ。まちに住む者一人一人が自由に考えて判断し、発言することができる個人である、などと考えるのは都市民の甘い幻想に過ぎない。

良い、悪い、を言いたいのではない。また、言うまでもなく、君達の育ってきた環境、歩んできた人生を他と取り換えられようはずもない。君達はあくまで、よそ者として現場のまちに入り、「風のように」去っていくことを運命づけられている。そのような制約を踏まえてなお、現地の人たちに「所詮、学生さんの言うことだから」と言い放たれることなき説得力のある仕事をなすためには、何が一番必要なのだろうか？ 所定の時間と空間の中で試験問題を次々に「処理」する惨憺な思考力だろうか？ 否、と言いたい。我々が相手とするのは、紙の上にしれっと印刷されただけの「問題」ではない。都市の中に浮かびうつろう、往々にしてその正体が明らかでない、不定形でずっと複雑な問題だ。都市を織り上げている人びとのリズムと音程は個々に異なり、その多くが、先に言ったとおり、君達エリートとは遠い距離を持つものだ。

この、「都市」という、気の遠くなるような数の物語の重奏を前に、我々は匙を投げるよりほかないのだろうか。もちろん、否。現場の当事者の人びとと「取って代わる」ことができない君達ができること、それは想像すること。文献を緻密に調査し、現地を大胆に

昨

年の大忘年会は12月18日、例年どおり本郷鳳明館本館で挙。現役、OBOG 合わせておよそ50名が、仕事納めよりも二足ばかり早い会に集まり、交流をあたためた。

恒例の「今年の自慢・来年の抱負」が一巡したあとは、両教授のスピーチ。トリを飾った西村教授は、約半時間に亘って、参加者に奮起を促す演説を行なった。



踏査する中で、想像力をこそ、はばたかせよ。君達がプロジェクトとして、仕事として行なっている「まちづくり」は、向き合うまちとまちに住む人びとへの想像力がある限り、巧拙はあれども、血の通ったもの、人びとの心に訴えるものとなり得る。想像力とは、試験で好成绩を取める思考力と一定の比は比例するものの、異なるベクトルを持った代物だ。想像力を、常に磨き、行使されんことを願って、年末の挨拶と代え、併せて、新しい年へと向かう君達へ贈ることばとしたい。



紙上公開！

北沢年賀状

愛妻刺繍眩し

北沢猛
東京大学教授
新領域創成科学研究科空間計画研究室
工学系研究科都市デザイン研究室
柏の葉アーバンデザインセンター
UDCKセンター長
横浜市参事・京都府参事・千葉県参事
NPO法人アーバンデザイン研究体
理事長

明けておめでとうございませう。
皆さん、今年もよろしくお願ひします。
わたしは昨年4月から「東京大学柏キャンパス」に選い
11月には「柏の葉アーバンデザインセンター」を開設しました。
「本郷」と「徳政」に加えて、4ヶ所の活動拠点を回ったり楽しみました。
新しい拠点も見えてきた。
今年もよろしくお願ひします。

柏の葉だより・冬

2006.12.16 『アートがまちにやってくる』とUD学生部会

新領域・北沢研究室 M1 砂川亜里沙

北沢教授が理事長を務めているNPO法人アーバンデザイン研究体(UD M)の定期勉強会がUDCK(柏アーバンデザインセンター)で行われました。『アートがまちにやってくる』と題して、パネリストはUD M 理事の加藤忠正さん(川崎市)、(株)ワコールアートセンター/スパイラルチーフプランナーの松田朋春さん、Bank ART 1929+PH スタジオ代表の池田修さんでした。

加藤さんには、川越で街並み相談の機能を果たしているデザイン部会や蔵を活かしたライブ等の事例を、池田さんには、横浜市における都心部活性化企画のひとつとしてBank ARTの運営やその特徴を、それぞれご紹介頂きました。松田さんは自身が関わられたランデヴーPJを例に、スパイラルの紹介や、アーティスト自身やアーティストを応援する人達も成長できるようにシステム作りの重要性をお話くださいました。

講演とパネルディスカッションの後、会場的一般の方からの質問も。「柏と柏の葉の繋がりをどう考えていくのか」「新・旧住民の交流は」など、スタジオで議論されている事も挙がり、私たちと地元の方々の問題意識がずれていなかったことに安心すると共に、是非とも地元の人にも参加して頂き具体的なプランを創っていただくと強く思いました。

その後UDCK という空間をまずは拠点として、今後集まった人達との議論から何か面白い展示や企画等がやりたいという事でUD 学生部会の第1回MTGを行いました。東大柏をはじめ、東海大学杉本研からも参加があり、今後に期待大です。まずはスタジオ参加大や麗澤大、江戸川大、柏市の大学を中心として構成していく予定です。本格的に動き出すのはスタジオの最終発表後になりそうですが、学生のネットワークの軽さと連携を活かしていきたいと思えます。



編集後記

text_Bannai

9階院生室の気温は、夏と3度しか変わらぬ27度。窓外は山並みが見える澄んだ空気だというのに、室内は0A機器の吐き出す淀んだ熱気に満ち満ちている。一年の計たる新年号で、発行遅れ日数の記録を更新してしまった。反省。